

京都の美学から生まれたテーブルライトが新登場

トキ
灯りが変われば 時間が変わる
こだわり抜いた灯りがつくり出すのは、その一瞬一瞬が愛おしくなる時間の流れ



京都で「Emotional to Life」をコンセプトに掲げ、新しい価値を創造する照明デバイスブランド、レイゾン。「伝統を重んじながら、革新を続ける」という京都ならではの美学を統合した製品を作り続けています。この度、テーブルライトLusso、Octagon、Shizukuの3アイテムが新たに販売開始となりました。どのライトも上質な空間に彩を添えてくれます。

3アイテムは、それぞれ趣が異なります。Lussoは重厚感のある金属フレームが特長で、透明な柱の中であかりが優しく灯る灯籠や行燈を思わせる佇まい。Octagonは直線的なカットを施したクリスタルガラスが目を惹き、宝石のように煌めきます。Shizukuはクリスタルガラスのなめらかな曲線が美しく、テーブルをエレガントに演出します。

点灯モードは4種類。100%点灯、50%点灯、ゆらぎ点灯、ほたる点灯を全てに搭載しています。ゆらぎ点灯は、ろうそくの灯のように揺らめいて、思わずずっと眺めていたくなります。ほたる点灯は、ゆったりと光の強弱を繰り返すため、眺めているうちに心が安らぎます。スイッチの短押し、もしくは器具を30～60度傾けることで、モードの切替えが可能です。

居住空間だけでなく、ホテルやレストランの空間づくりにも幅広くご利用いただけます。monovaで実物を手に取ってご覧いただけますので、お気軽にお立ち寄りください。

Lusso / ルツ (写真:左)

品番：RKY04
価格：¥38,500(税込)
素材：アクリル(透明)、ウォールナット
アルミ(シャンパンメタリック塗装)
サイズ：Φ105×128mm

Octagon / オクタゴン (写真:中央)

品番：RKY06
価格：¥33,000(税込)
素材：クリスタルガラス、ABS(クロム蒸着)
サイズ：Φ103×125mm

Shizuku / しずく (写真:右)

品番：RKY05
価格：¥30,800(税込)
素材：クリスタルガラス、ウォールナット
サイズ：Φ91×99mm

【Rayson / レイゾン株式会社】電子制御技術を基盤にして、「喜びや感動」「安らぎや癒し」「驚きや興奮」など、人が持つ自然な感情に訴えかける光を生み出しています。「日常生活に欠かせない照明から情感を感じられることで、暮らしはもっと和やかになり、華やぐ」というコンセプトで、Raysonは日々照明に向き合っています。

■ <https://rayson-kyoto.com/>

主催：有限会社桂雛・monova

洗練された伝統美「桂雛 雛人形展示販売会」

2024年10月31日（木）～2024年12月10日（火）

古典からモダンまで。ご希望を伺いながら多彩な雛人形をご提案



1926年(昭和元年)に創業した桂雛(かつらびな)は、三代目の雛人形作家、小佐畑孝雄(こさはた たかお)氏が雛人形の製作を手掛けています。桂雛では200以上のパーツを組み合わせながら一貫して手作りでっており、その製造法や技法が高く評価され、茨城県郷土工芸品に指定されました。伝統を守りながら、モダンなインテリアとも調和するアートとしての雛人形を確立し、現在に至っています。

今回は事前予約制にて、お客様のご希望を丁寧にお伺いいたします。生地のお持込みによるオーダー、既製品からの一部仕様変更等のご相談も承ります。様々な組み合わせから、お好みの雛人形と一緒に探してみませんか。

初節句等のお祝いにはもちろん、大人も楽しめるインテリアアートとしても選ばれています。ぜひご来場ください。

 TAKAO KOSAHATA

洗練された伝統美「桂雛 雛人形展示販売会」

＜開催概要＞

会 期：2024年10月31日(木)～2024年12月10日(火)

10:30～18:30 ※ご相談は事前予約制

(最終日は15:00終了 / 水曜日休館)

会 場：monova

(東京都新宿区西新宿3-7-1 新宿パークタワー5階)

主 催：有限会社桂雛・monova

＜作家プロフィール＞

小佐畑 孝雄 氏 (有限会社 桂雛 代表/雛人形作家)

1972年茨城県生まれ。東京電機大学入学後に駿河雛人形師、牧田哲也氏に師事。1995年には、桂雛創始者小佐畑喜士氏(初代：桂雛喜鳳)と二代目小佐畑初江氏に師事し、1996年に三代目として桂雛喜鳳を襲名。日本の伝統的な色彩や文様をベースに、新たなデザインを取り入れ、すべての工程を一貫して制作した雛人形は、国内外の多くの人々を魅了している。

主な作品に、2015年、駐日エストニア共和国大使館の雛人形を制作。2016年、日本・ベルギー国交150周年記念の雛人形を制作。2020年、雛人形「京十番親王/本場結城紬：緑の山」を制作し天皇陛下へ献上。

【有限会社桂雛】茨城県が誇る伝統工芸品「桂雛」。現在は三代目となる小佐畑孝雄氏は、初代から続く伝統を守るだけでなく、「結城紬」や「西ノ内和紙」などの地元産品を積極的に活用し、芸術性を追求しながら披露の場を広げています。希望の生地で衣装を仕立てるオーダー品の制作などにも取り組み、桂雛の継承に力を注ぎます。

■ <http://www.katsurabina.jp/index.html>■ <http://takaokosahata.jp/>

企画：monova / 協力：藤木伝四郎商店
「樺細工の茶筒百景 ～Tea caddy Views～」
2024年10月3日（木）～ 2024年10月29日（火）

秋田県・角館の伝統工芸品、樺細工の茶筒。作家モノも含めズラリ並べてご紹介します



monovaでは、スタートした2011年当初から秋田県角館の伝統工芸品である樺細工を紹介してまいりました。ご存知の通り、樺細工のなかでも茶筒はよく知られたアイテムであり、山桜の樹皮を活かした仕上がりからは自然の美しさを感じられ、一つ一つに異なる趣があります。暮らしに身近なモノに、ここまで自然の風合いを残している工芸はとても希少なのではないのでしょうか。そこに樺細工のもう一つの魅力があるように思います。

そこで、この展示では「樺細工の魅力を存分に感じていただく」と50種ほどの茶筒を集め、茶筒百景と題して開催します。見どころは何と言っても多彩な品揃えです。樹皮の表情を存分に活かした「霜降皮」と呼ばれる仕上げや、樹皮を薄く削って光沢を出した「無地皮」、一度樹から剥ぎ取った筒所に出来た2度目の皮で仕上げたものなど、どれも野趣あふれる茶筒の逸品が50種ほど並びます。また、もう一つの見どころは、地元作家による1点ものの珍しい樺細工の茶筒です。他ではなかなか見られない個性のある茶筒がたくさん並びます。

秋は紅葉のシーズンです。樺細工の茶筒が並ぶ「自然の美と工芸の技の競演による景色」を是非、お楽しみください。



角館 伝四郎

樺細工の茶筒百景 ～Tea caddy Views～

<開催概要>

日 時：2024年10月3日（木）～ 2024年10月29日（火）
10:30～18:30（水曜日休館）

会 場：monova（東京都新宿区西新宿3-7-1 新宿パークタワー5階）

企 画：monova

協 力：株式会社藤木伝四郎商店

【株式会社藤木伝四郎商店】武家屋敷の街並み、桜の名所として知られる秋田県角館。樺細工は、その雪深い地域の武士の手内職として作られてきました。藤木伝四郎商店は江戸時代末期1851年の創業。厳選された素材と高い技術力で、確かな製品を作り続けています。モダンでシンプルなデザインは現代の暮らしにすっと溶け込み、静かに存在感を放ちます。

■ <https://denshiro.jp/>

<お問合せ>

Japan creation space monova

担当：赤澤

tel：03-6279-0688（10：30-18：30 水曜定休） / mail：info@monova-web.jp / WEB：<https://www.monova-web.jp>